

## PET 検査件数に関するアンケート調査報告

(社)日本アイソトープ協会 医学・薬学部会

サイクロトロン核医学利用専門委員会 委員長 小西 淳二

同 FDG PET ワーキンググループ 主査 鳥塚 莞爾

日本核医学会 PET 核医学委員会 委員長 福田 寛

### はじめに

日本アイソトープ協会 医学・薬学部会サイクロトロン核医学利用専門委員会と日本核医学会 PET 核医学委員会では、平成 14 年 4 月に FDG PET 検査が保険適用となって 1 年が経過したことを踏まえて、平成 15 年 6 月現在の PET 検査の実施状況に関するアンケート調査を実施した。

今回の調査の主な目的は、PET 検査を実施している施設における保険診療の実情と保険診療以外の検査の実施状況を把握することにあった。

### 1. アンケートの回収率

アンケート用紙は、平成 15 年 7 月初めに PET 検査を実施している 47 施設に対し送付し、同年 7 月末までに返送していただくようお願いした。回答は、42 施設から寄せられたので、回収率は 89.4% であった。

### 2. 質問項目と回答の集計結果

各項目の設問内容と回答の集計結果を以下に示す。

#### 2.1 PET カメラの台数

問 1 では、平成 15 年 6 月現在の PET カメラ台数について質問した。タイプ別の回答結果を表 1 に示す。

#### 2.2 FDG PET 検査の診療報酬点数

問 2 では、FDG PET 検査を保険診療で行う際に、共同利用率等により診療報酬点数に違いがあることから、この点について質問した。回答結果を表 2 に示す。大学病院では 7,500 点で診療できている施設が 26.7% と少なく、全体でも 46.3% と半数以

下であった。

#### 2.3 $^{15}\text{O}$ 酸素ガスを用いた PET 検査件数

問 3 では、 $^{15}\text{O}$  酸素ガスを用いた PET 検査件数について質問した。 $^{15}\text{O}$  酸素ガスを用いて保険診療を実施している施設は 42 施設中の 19 施設 (43.9%)、また、平成 15 年 6 月の 1 か月間 (一部 5 月で回答の施設を含む) の保険診療は 173 件中の 165 件 (95.4%) であった。健診・ドックの目的での施行は 1 件もなく、研究目的は 8 件 (4.6%) であった。

#### 2.4 FDG を用いた PET 検査件数

問 4 では、FDG を用いた PET 検査件数について質問した。回答結果を表 3 に示す。

FDG の検査件数は、1 か月間で 4,986 件 (平成 15 年 6 月、一部 5 月の件数で回答の施設を含む) で、保険診療は 2,902 件 (58.2%)、自由診療は 1,833 件 (36.8%)、研究等が 251 件 (5.0%) であった。

施設別にみると、保険診療を実施している施設が 42 施設中 36 施設 (85.7%)、自由診療 (健診・ドック) を実施している施設が 14 施設 (33.3%)、研究等を行っている施設が 23 施設 (54.8%) であった。保険診療の 2,902 件中、7,500 点で実施されている検査は 1,638 件 (56.4%) であった (表 4)。

#### 2.5 保険診療の適応疾患別件数

問 5 では、保険診療が認められた FDG PET 検査の適応疾患について質問した。回答結果を表 5 に示す。適応疾患 12 疾患のうち、肺癌がもっとも多く、原発不明癌、大腸癌など悪性腫瘍関係が上位を占めている。

#### 2.6 保険適用を要望している疾患の件数

問 6 では、保険適用になっていないが、日本核医

学会を中心に、平成 16 年度から保険への適用を要望している疾患の検査件数について質問した。回答結果を表 6 に示す。この質問に関しては、平成 15 年 1 月～6 月の 6 か月間の件数で回答していただいた。

### おわりに

本アンケート調査の結果は、平成 16 年度の診療報酬改定に向けて関係学会から要望している事項について大変重要な資料となった。すなわち、以下の 3 点が本調査によって明らかとなった。

1) FDG PET 検査が保険適用となって 1 年以上経過したが、自由診療の比率が依然として多いこと。

表 1 PET カメラの台数

|             | 台数   | 比 (%) |
|-------------|------|-------|
| 2D 専用タイプ    | 16 台 | 23.9% |
| 2D・3D 両用タイプ | 51 台 | 76.1% |
| 合計          | 67 台 |       |

表 2 FDG PET 検査の施設分類別診療報酬点数の状況

| 施設区分  | 診療報酬点数  | 施設 | 比 (%) |
|-------|---------|----|-------|
| 大学病院  | 保険請求なし  | 2  | 13.3  |
|       | 6,000 点 | 9  | 60.0  |
|       | 7,500 点 | 4  | 26.7  |
| 国公立病院 | 保険請求なし  | 2  | 15.4  |
|       | 6,000 点 | 4  | 30.8  |
|       | 7,500 点 | 7  | 53.8  |
| 民間病院  | 保険請求なし  | 2  | 15.4  |
|       | 6,000 点 | 3  | 23.1  |
|       | 7,500 点 | 9  | 61.5  |
| 全体    | 保険請求なし  | 6  | 14.6  |
|       | 6,000 点 | 16 | 39.0  |
|       | 7,500 点 | 20 | 46.3  |

表 3 FDG PET 検査の検査目的別の実施件数

| 検査の目的        | 件数    | 比 (%) |
|--------------|-------|-------|
| 保険診療 (36 施設) | 2,902 | 58.2  |
| 自由診療 (14 施設) | 1,833 | 36.8  |
| 研究等 (23 施設)  | 251   | 5.0   |
| 合計           | 4,986 |       |

2) 大学病院などでは保険診療を行う際、施設基準に定められた共同利用率に適合することが容易でないこと。

3) 新たに保険適用が要望されている 3 疾患について、過去 6 か月間における検査の実施状況が把握できたこと。

最後に、両委員会は本報告を公表するに当たり、急ぎのアンケート調査にもかかわらず、多くの施設からご回答いただいたことに対して、心より感謝申し上げます。

表 4 FDG を用いた保険診療の点数別内訳

| 点数の区分      | 件数    | 比 (%) |
|------------|-------|-------|
| 6,000 点の検査 | 1,264 | 43.6  |
| 7,500 点の検査 | 1,638 | 56.4  |
| 合計         | 2,902 |       |

表 5 FDG PET 検査の保険診療の適応疾患の内訳

| 適応疾患名  | 件数    | 比 (%) |
|--------|-------|-------|
| 肺癌     | 730   | 26.2  |
| 原発不明癌  | 328   | 11.8  |
| 大腸癌    | 305   | 11.0  |
| 頭頸部癌   | 298   | 10.7  |
| 悪性リンパ腫 | 286   | 10.3  |
| 乳癌     | 244   | 8.8   |
| 転移性肝癌  | 223   | 8.0   |
| 膵癌     | 148   | 5.3   |
| 脳腫瘍    | 91    | 3.3   |
| てんかん   | 58    | 2.1   |
| 虚血性心疾患 | 44    | 1.6   |
| 悪性黒色腫  | 30    | 1.1   |
| 合計     | 2,785 |       |

注) 適応疾患の内訳合計は、保険診療の 2,902 件より少なく回答されている。

表 6 FDG PET 検査の保険適用を要望している疾患

| 疾患名         | 件数  |
|-------------|-----|
| 食道癌         | 480 |
| 婦人科癌        | 575 |
| アルツハイマー型痴呆症 | 150 |

平成 15 年 1 月～6 月の 6 か月間